

氏名	桑 原 直 昭
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 2886 号
学位授与の日付	平成7年 6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Immunohistochemical studies of PIVKA-Ⅱ in hepatocellular carcinoma by indirect immunofluorescence (間接蛍光抗体法を用いた肝細胞癌組織におけるPIVKA-Ⅱの免疫組織化学的研究)
論文審査委員	教授 赤木 忠厚 教授 太田 善介 教授 中山 睿一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝細胞癌の特異的な腫瘍マーカーとされる PIVKA-Ⅱ (Protein induced by vitamin K absence or antagonist Ⅱ) の組織染色を行った。組織の固定方法としてはパラホルムアルデヒドでの固定が最適であった。PIVKA-Ⅱ陽性細胞は肝細胞癌部のみに認められ、周辺の硬変肝の部位には陽性細胞は認められなかった。また、陽性細胞は肝細胞癌結節の全体を占めず約30%程度にみられた。PIVKA-Ⅱ陽性細胞は肝細胞癌のサイズが大きくなるに従い陽性率も上昇したが、肝細胞癌の分化度との間には関連は認められなかった。血漿中の PIVKA-Ⅱが測定感度以下の2センチ以下の肝細胞癌でも60%に陽性細胞を認め、小肝細胞癌でも PIVKA-Ⅱを産生していることが明らかにされた。以上より、PIVKA-Ⅱの組織染色は小肝細胞癌の診断に有用で、高感度血漿 PIVKA-Ⅱ測定キットの開発は肝細胞癌の早期診断に重要と思われた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肝細胞癌の特異的腫瘍マーカーとされるPIVKA-Ⅱの肝細胞癌における発現を、蛍光抗体法によって免疫組織学的に検索したものである。従来十分に明らかにされていなかった最適な固定法、PIVKA-Ⅱの肝癌細胞特異性、腫瘍サイズとPIVKA-Ⅱ陽性率との相関について重要な新知見を得ており、価値ある業績である。

よって本研究者は、博士(医学)の学位を得るに値するものとする。